■林忠崇　　上総国請西藩藩主。戊辰戦争に脱藩した唯一の大名，維新後は平民扱いも，長命で最後の生き残り大名になった。
はやしただたか
・・・・・・1848＝　　上総国で，請西藩初代藩主林忠旭の五男に生まれる。幼名昌之助。

請西藩は，祖父忠英が将軍家斉に寵愛されて大名になり，一万八千石の貝淵藩を立藩したが，家斉の死で，水野忠邦に隠居させられ，継いだ父忠旭は一万石に削られて，陣屋の場所変えさせらてできたもの。

ペリー来航・1853＝ 5歳：
開国開港・・1854＝ 6歳：忠旭が隠居，兄忠貞は夭折しており，自らも幼少だったため，叔父忠交が家督を相続，

蕃書調所・・1857**＝ 9歳：**

桜田門外変・1860＝12歳：

父忠旭が狩野派に学んでいたことから，狩野堇川に入門して画力を評価されただけでなく，和歌が得意で，鎖鎌術を修めるなど，文武両道に秀で，

薩長同盟・・1866**＝18歳：**
大政奉還・・1867＝19歳：忠交が急逝，その子忠弘が幼少のため，**_3代藩主になる。将来を嘱望されたが，直後に大政奉還となり，**
明治維新・・1868＝20歳：***戊辰戦争が勃発すると，藩論は恭順派と抗戦派に二分，自らは急進的な佐幕派だったことから，脱藩という手段に出，藩士を引連れ遊撃隊に参加。転戦後，奥羽列藩同盟に参加するも戦況は悪化，盟主の仙台藩も新政府軍に降伏したため，徳川家の存続を確認すると，自らも降伏，謝罪の嘆願書を提出するも，新政府は藩主自らの脱藩を反逆と見なし，林家は大名家最後の改易処分，江戸の唐津藩邸に永預けとなる。**
戊辰戦争終・1869＝21歳：甥の忠弘が東京府士族として家名存続が認められるもの，家禄は35石まで減らされ，
廃藩置県・・1871＝23歳：忠弘のもとに預け替えになるも，生活は困窮，自活の道を模索し始め，
学問のすすめ1872＝24歳：**_赦免され，旧領の請西村で，農民として生活するうち，**
明治6年政変 1873＝25歳：**_東京府に十等属の下級役人として登用され，**
初の民間工場1875**＝27歳：*中属まで昇進したが，東京府権知事楠本正隆と意見が衝突すると，あっさり辞職。**
函館に渡り，仲栄助の商店で番頭を務めるが，2年あまりで辞め，神奈川県座間の水上山龍源寺に住み込むなどした後，

・・・・・・1880＝32歳：**_大阪府西区の書記となり，ようやく定職に就くが，なお苦しい生活が続く。**
明治14年政変1881＝33歳：

秩父事件・・1884**＝36歳：**この年，華族令が施行される。
内閣発足・・1885＝37歳：(それまでにも何人かの女性と同棲，離別を繰り返していたが)小島弥作次女チエと実質的に結婚，
帝国大学始・1886＝38歳：次女ミツが誕生(前の女性との間の長女は夭折していた)。

帝国憲法発布1889＝41歳：チエを入籍して正室とする。

かつての幕臣で今や新政府の高官になった榎本武揚らに支援を求めるも，冷たくあしらわれ，**_旧諸侯ながら，長く華族の礼遇が与えられずにいたが，旧藩士による林家の家名復興の嘆願が認められ，**
郡司千島探検1893**＝45歳：**忠弘が男爵を授けられて華族に列すると，
日清戦争始・1894＝46歳：分家として復籍して，同じく**_男爵となり，従五位に叙された。**
その後は宮内省東宮職庶務課に勤めるが，
白馬会・・・1896＝48歳：病気のため辞職，
回復後，
Bushidou・・1899＝50歳：日光東照宮の神職となり，その歳旦祭の神餞に兎を供える慣習を始めるなどするが，

教科書疑獄・1902**＝54歳：**妻の病気のためか，辞職して帰京。

日露戦争始・1904＝56歳：妻チエが死去。
日露戦争終・1905＝57歳：

一時，大蔵省印刷局に出仕していた可能性があり，また，**_剣道に励んで，健康に過し，**

大逆事件判決1911**＝63歳：**
明治天皇没・1912＝64歳：

21ヶ条要求・1915＝67歳：次女ミツが，妹尾銀行頭取で衆議院議員も務めていた岡山県の妹尾順平に嫁いだため，そこに同居，

大暴落・・・1920**＝72歳：**
原敬首相暗殺1921＝73歳：

世界恐慌・・1929**＝81歳：**
芥川直木賞始1935＝87歳：ミツが妹尾と協議離婚，東京に戻って二人暮らし，ミツが妹尾順平からの仕送りに支えられたフランス人形店を経営，**_ユトリもできて，以後，悠々自適の生活，**
日中戦争始・1937＝89歳：***高齢の故をもって，宮中に招かれ，銀盃等を下賜される栄誉があり，さらに，旧広島藩主浅野長勲が死去して，生存する"最後の大名"となると，色々と取材を受けるなど，幸福な最後を過ごすうち，**
大政翼賛会・1940＝92歳：(戦争が始まって，フランス人形店の経営できななくなり)ミツが経営を始めたアパート{高田荘}に移住，
日米開戦・・1941＝93歳：***風邪をこじらせ，仙台で降伏した際に詠んだ歌'真心のあるかなきかはほふり出す腹の血しおの色にこそ知れ'をそのまま辞世として，没した。晩年は一夢と号し，回想録「一夢林翁戊辰出陣記」を遺した。**
インターネットWikipedia，中村彰彦「脱藩大名の戊辰戦争」，